

夏季イベント開催に向けた 熱中症対策

屋外での夏季イベントでは、特に熱中症が発生しやすくなります。
イベント主催者の方々に向け、安全に開催するためのポイントをまとめましたので、ぜひご活用ください。

1 開催の検討段階に応じて、柔軟に対応しましょう

開催時期	暑い時期を避けた開催の検討
実施時間	朝夕の時間帯での開催や時間の短縮など
開催場所	屋内での開催の検討など
実施・中止基準設定	暑さ指数(WBGT)※を参考に判断基準を決めるなど

※暑さ指数(WBGT)とは、熱中症に関連する
気温、湿度、日射、輻射、風のデータをもとに
熱中症の危険度を判断する数値。

佐野市の暑さ指数(WBGT)はこちらから

環境省「熱中症予防情報サイト」



暑さ指数(WBGT)ごとの熱中症予防運動指針

暑さ指数 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安(*1)	日常生活における注意事項(*1)	熱中症予防運動指針(*2)
31以上	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	運動は原則中止 特別な場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。
28~31		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。	厳重警戒(激しい運動は中止) 熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10~20分おきに休憩をとり、水分・塩分を補給する。暑さに弱い人※は、運動を軽減または中止。
25~28	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休憩を取り入れる。	警戒(積極的に休憩) 熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分、塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
21~25	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	注意(積極的に水分補給) 熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。

(*1)日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針 Ver.3」(2013)より

(*2)日本スポーツ協会「熱中症予防運動指針」(2019)より、同指針補足 熱中症の発症リスクは個人差が大きく、運動強度も大きく関係する。

運動指針は平均的な目安であり、スポーツ現場では個人差や協議特性に配慮する。

※暑さに弱い人:体力の低い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など。

2 体制づくり、マニュアルの作成を行い、スタッフ同士で事前に共有しましょう

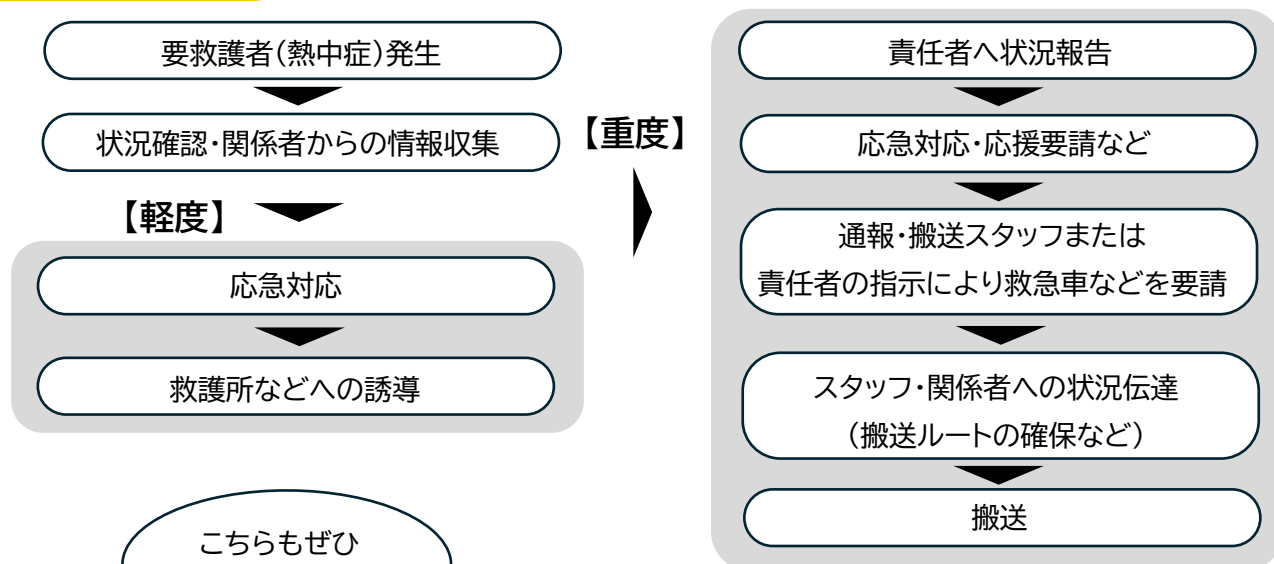
危機管理体制づくりのポイント

- 気温や暑さ指数(WBGT)などによるイベントの変更・中止の判断基準及び判断する責任者を設定する
- 気温や湿度などの気象条件を把握し、熱中症発生リスクを含めて事前に共有できるようにする
- 熱中症患者に対応するため、冷たい飲料や涼しい休息場所(救護所)を確保する
- 現場で初期対応をするか医療機関での治療が必要かどうかの判断を行えるよう、スタッフと熱中症に関する知識を共有する
- イベントPRの際に、参加者に熱中症への注意を呼びかける

マニュアル作成時のポイント

- 対応責任者、通報や搬送の担当者を設定し、明記する
- 熱中症が発生したときに、誰に連絡するのか連絡系統を整理する
- 応急処置の対応を記載する
- 熱中症発生時に責任者に伝達すべき事項を整理する
(発生場所、時間、発見時の状態、実施した応急処置の内容など)
- 非常事態発生時の対応を明確にする(緊急対応フロー例参照)
- 熱中症発生場所の特定方法、搬送者の搬送ルートを予め規定し、共有する

緊急対応フロー例



こちらもぜひ
ご確認ください

【出典】

環境省 夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン 2020

環境省 熱中症環境保健マニュアル 2022



【パンフレットに関するお問い合わせ】

佐野市気候変動対策課 電話 0283-85-7302